

外国人による日本語弁論大会のあゆみ

日本が国際社会の一員として積極的にその意義と責任を果たすためには、日本人一人一人が諸外国の文化・伝統に対する理解をもつと同時に、日本に対する外国人の理解を深めることに努力を傾注しなければなりません。

この大会は、多くの外国人が日本語を話すことにより日本人および日本に対する理解を深め、わが国との友好親善、相互理解に寄与することを目的として1960年より毎年開催しています。39回（1998年）の岐阜市での大会以降は、それまでの東京開催から、各地の国際交流活動の活性化に伴い地方都市における開催を継続しています。今年は、井原市のご協力のもと、初めて岡山県で開催することとなりました。

本大会の様子は

2026年12月6日(日)午後2:30~3:29 NHK Eテレで放送予定
「ワタシの見たニッポン 第65回 外国人による日本語弁論大会」

※放送日時は変更になる場合があります。

次回66回大会のお知らせ

2027年10月30日(土)に大阪府泉佐野市にて開催を予定しております。詳細が決まりましたら、一般財団法人国際教育振興会のWebサイトにてお知らせいたします。(www.iec-nichibei.or.jp)

ご来場の皆様へ

本弁論大会には、会場に主催者および日本放送協会（NHK）のカメラ数台が入り出場者だけでなく、会場内の様子も撮影いたします。

後日、大会ホームページ、NHK番組内で皆様のお姿が映ることもありますのでご了承ください。

会場内での録音・録画・撮影は禁止です。携帯電話はマナーモードにするか電源をお切りください。

2026
The 65th International Speech Contest in Japanese
聞いてください、私たちが見た日本、感じた世界。

第65回 外国人による 日本語弁論大会

プログラム



日時 | 2026年10月3日(土) 13時開始

場所 | 岡山県井原市 井原市民会館

〈主催〉

IEC 一般財団法人
国際教育振興会

JAPAN FOUNDATION 国際交流基金



岡山県 井原市

〈後援〉

外務省／文部科学省／岡山県／井原市教育委員会／井原市国際交流協会／井原商工会議所／備中西商工会／
NHK／NHKエデュケーショナル／日本語教育学会／第65回外国人による日本語弁論大会実行委員会

〈協賛〉

キッコーマン株式会社／にほんごの凡人社／株式会社スリーエーネットワーク

プログラム

第一部

スピーチコンテスト

● 開会式 13:00～

お言葉 高円宮妃久子殿下

開会の辞 田淵 エルガ 独立行政法人国際交流基金
上級審議役

主催者紹介、来賓紹介、出場者紹介、
後援・協賛団体紹介、ルール説明

● 前半 13:25～ 6名

休憩

● 後半 14:30～ 6名

休憩

第二部

井原鏡獅子長発太鼓保存会による 和太鼓演奏 15:40～

休憩

● 閉会式 16:30～

挨拶

権田 藍 外務省 大臣官房文化交流・海外広報課長

降旗 友宏 文部科学省 総合教育政策局日本語教育課長

審査員講評 西口 光一 審査員長

審査結果発表 外務大臣賞、文部科学大臣賞、井原市長賞、会場審査員賞

閉会の辞 大舌 勲 井原市長

● 終了予定 16:50

●時間は進行により前後することがございます。

特別審査員

関根 麻里 タレント

特別審査員は、会場でスピーチコンテストを聞き、他の審査員と一緒に、
外務大臣賞・文部科学大臣賞・井原市長賞の選考を行います。

審査員

審査員長 西口 光一 広島大学特任教授 日本語教育学会会長

審査員 片山 昌之 第65回外国人による日本語弁論大会実行委員会会長

佐藤 典子 第65回外国人による日本語弁論大会実行委員会委員

守屋 博之 NHKコンテンツ制作局 第1制作センター
＜教育・次世代＞部長

司会進行

クリストファー
リナルディ 鹿児島県徳之島町国際交流員
第63回日本語弁論大会外務大臣賞 受賞

(敬称略)



特別審査員

関根 麻里

インターナショナルスクールを経て、アメリカの
エマーソン大学を首席で卒業した後、日本に戻り
芸能界デビュー。

得意の英語を生かし、絵本翻訳や、海外のアー
ティスト・俳優へのインタビューも数多く行っ
ている。

2014年に結婚し、現在は2児の母。

第二部出演 井原鏡獅子長発太鼓保存会 (いばらかがみじしながおきだいこぼんかい)



井原市内で40年引き継がれる和太鼓の
グループ。井原鏡獅子太鼓は、井原市出
身の彫刻家・平櫛田中(ひらくしてんちゅ
う)の代表作「鏡獅子」にちなんで名付け
られた。勇壮な太鼓演奏が特徴。長発太
鼓は、幕末の遣欧使節団の団長を務めた
池田長発(いけだながおき)公の名前に
由来し、地元の子もたちによって演奏
される。100匹以上の鬼が練り歩く地元
伝統の「鬼まつり」や春の「桜まつり」な
どの地域行事で親しまれている。

1. ジャック アンドリュエ

- カナダ
- 小山町役場地域振興課
- 国際交流員



日本人と戦って学んだこと

私は赤毛のアンと同じ出身地、カナダのノバ
スコシア州から来ました。実は、私には日本語を一緒に勉強してきた双子の弟がいます。弟が大西洋カナダ日本語スピーチコンテストで優勝したこと、そして歌手として活動をしている妹のマギー・アンドリュエの影響で、私もステージに上がって頑張ってみたいと思うようになりました。私は人間にとって「コミュニティ」がいかに大切かという思いを込めてこのスピーチのトピックを選びました。できるだけ緊張せずに頑張ります！

4. ヘイン ティ ザ

- ミャンマー
- 東京国際交流学院
- 日本語学校生



私は東京のシャドーだ

ミャンマー出身で、現在は東京の日本語学校で日本語を学んでいます。人との出会いや会話を大切にしており、自分とは異なる文化や考え方に触れるたびに、新しい世界が広がるように感じます。趣味は歌うことと作詞作曲で、言葉では伝えきれない気持ちを歌にすることが好きです。新聞配達のアルバイトにも励みながら、日々の小さな経験を大切にしています。日本語を通して、一人でも多くの人の心に残る言葉を届けたいです。

2. ボガティ ガンガ

- ネパール
- ANA成田エアポートサービス株式会社
- 会社員



一枚の鏡が教えてくれたこと

仏陀の生誕地であるネパールで生まれ育った私は、特別なことなく毎日を楽しめるタイプです。晴れの日はもちろん、雨の日や雲の多い空、夜の月や星、きれいな夕焼けや朝焼けを見るだけでも嬉しくなります。季節が変わるたびに、自然が違う表情を見せてくれるのも大好きです。日本に来てからは、そんな「その日、その瞬間にしかない美しさ」に気づくことが増えました。小さなことで笑えて、小さなことで幸せになれることが、私の一番好きなところです。

5. ネバリ ビマル

- ネパール
- プライムデリカ株式会社
- 会社員



10枚の反省文が教えてくれたこと

私はエベレストから200キロほど離れた場所に生まれました。2023年に沢山の期待や不安を抱きながら日本へ参りました。日本で暮らしてきた中で経験した失敗は数え切れないほどあります。しかしその経験や失敗こそが私を成功へ導いてくれると信じております。今後来日して来る後輩達の憧れになれるような存在になることが一生の目標です。

3. ブランド カウサル プラナタ

- インドネシア
- ナカシマプロペラ株式会社
- 会社員

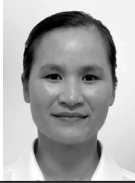


日本で学んだ「ワンチャン」の精神

インドネシア出身で、日本に来てから7年目になります。日本語学校、大学、そして現在の職場まで、ずっと岡山で過ごしてきました。趣味はその時々で変わりますが、運動や語学の勉強、そしてコーヒーを作ることが好きです。大学時代はカフェでアルバイトをしていたため、特にカフェラテを作るのが好きです。また、人との交流が大好きで、「初対面なのに昔から知り合いみたい」と言われることがあります。新しいことに挑戦するのが好きで、今回の弁論大会もその一つです。皆さまに自分の経験や考えをお伝えできることを楽しみにしています。

6. ゴー ティ ミントム

- ベトナム
- アラカフワーズ株式会社
- 会社員



私の夢

今年7月に再来日し、現在井原市に住んでいます。特定技能1号として井原市内で食品製造の仕事に従事する傍ら、井原市国際交流協会主催の日本語教室で日本語を学んでいます。特技は10歳から始めた空手道で、現在黒帯三段です。音楽が趣味で「未来へ」など日本の歌も大好きです。今回この日本語弁論大会に出場させていただけることになり、大変光栄なことと感謝しています。同時にとても緊張していますが一生懸命頑張りますので、皆さま是非応援よろしくお願い致します。

7. デイビッド アンダーソン

- アメリカ合衆国
- プリンストン大学
- 大学院生



他者理解の先へ

米国出身。国際政治・東アジア研究を専門とし、日米関係を研究している。高校時代に日本語を学び始め、岡山留学を経て、今も日本との関わりを続けている。好きな食べ物はオリーブ牛。愛犬の名は武蔵。この度、第二の故郷とも言える岡山での開催にあたり、この土地に根ざした、私にしかできないスピーチを。あえて抑えたアプローチで演者としての存在を消し、6分間そのものを楽しんでいただければ幸いです。

10. アドゥジャツボロフ イbrahim ジョン

- ウズベキスタン
- 東京外国語大学
- 大学院生



遠くの親戚より近くの他人

ウズベキスタン出身、東京在住。研究のかたわら、母国の首都タシケントで日本語学校「JLPT Master」を運営しています。この二年間で約千人が学び、二百人以上が日本語能力試験に合格しました。今年は、ウズベク語で日本語を学べる学習アプリも仲間と一緒に世に出しました。教室に通えない地方の若者にも、学ぶ機会を届けたかったからです。趣味は料理で、故郷のプロフを日本の友人にふるまうのが何よりの楽しみです。人と人をつなぐ場をつくるのが、私のライフワークです。

8. ムンフバヤル マラルゴー

- モンゴル
- 小山工業高等専門学校
- 高専生



当たり前の奥へ

私は小さい頃から「なぜ」「どうして」と考えるのが好きでした。雨が降る理由、空の色、人の習慣、気になったら調べずにはいられません。今はその好奇心のまま、高専の分子生物学の研究室で「なぜそうなるのか」を追いかける毎日を送っています。そんな「なぜ」を突き詰める性格から生まれたのが、今回のスピーチ「当たり前の奥へ」です。人はそれぞれ、育った環境によって作られた自分だけの「当たり前」というメガネをかけています。そして、それを通して世界を見ていると考えました。皆さんにしっかり言葉を届けたいです。

11. パエル ゾバイダ ホサン

- バングラデシュ
- 神戸電子専門学校
- 専門学校生



同じ空の下に生まれて

私はバングラデシュ出身で、今は神戸電子専門学校 国際コミュニケーション学科で学んでいる、ごく普通の留学生です。私の学科では毎週発表の時間があり、この授業のおかげで人前で日本語を話すことへの抵抗がなくなりました。また様々な国から来ている同級生たちとの交流を通して、異文化理解も深まりました。今回のテーマはその同級生や日本人との付き合いの中で気がついたことです。日本人は外国人との交流が少し苦手ではないですか。けれど、ほんの小さなきっかけで苦手意識は消えるものです。私はそんな思いを込めて発表します。

9. ホアン ファット

- ベトナム
- 東京経済大学
- 大学生



ラベルの向こうへ

こんにはファットです(全然ファットじゃないけど笑)。ベトナム出身で、約4年前に来日しました。その後、ずっと新聞配達のアルバイトをしていて、今では代配や集金までやっています(つまり、新聞配達マスターです)。日本語学校を2年間で卒業し、現在は東京経済大学の3年生です。大学生生活を送りながら、学内の国際交流サークルでも活動しています。人と話すことが好きで、知らない人の人生を聞くのも大好きです。最近の趣味は、難しい漢字を覚えること。いつか日本人より漢字に詳しいベトナム人になるのが密かな目標です(笑)。

12. ザン シャンホン

- 中国
- 主婦



人に育てられた二十七年

27年前、留学をきっかけに日本へ来ました。気がつけば、中国と日本で過ごした時間はちょうど半分ずつ。振り返れば、そこにはたくさんのお会いと経験、そして支えてくださった方々の顔があります。最近、来日直後に出場した日本語弁論大会の写真と原稿に再会し、歩んできた時間を改めて見つめました。感謝を胸に、今の自分の言葉でお話したいと思います。趣味はバドミントンと、始めて2年目になるゴルフです。これから好奇心を忘れず、新しい一歩を楽しみたいです。